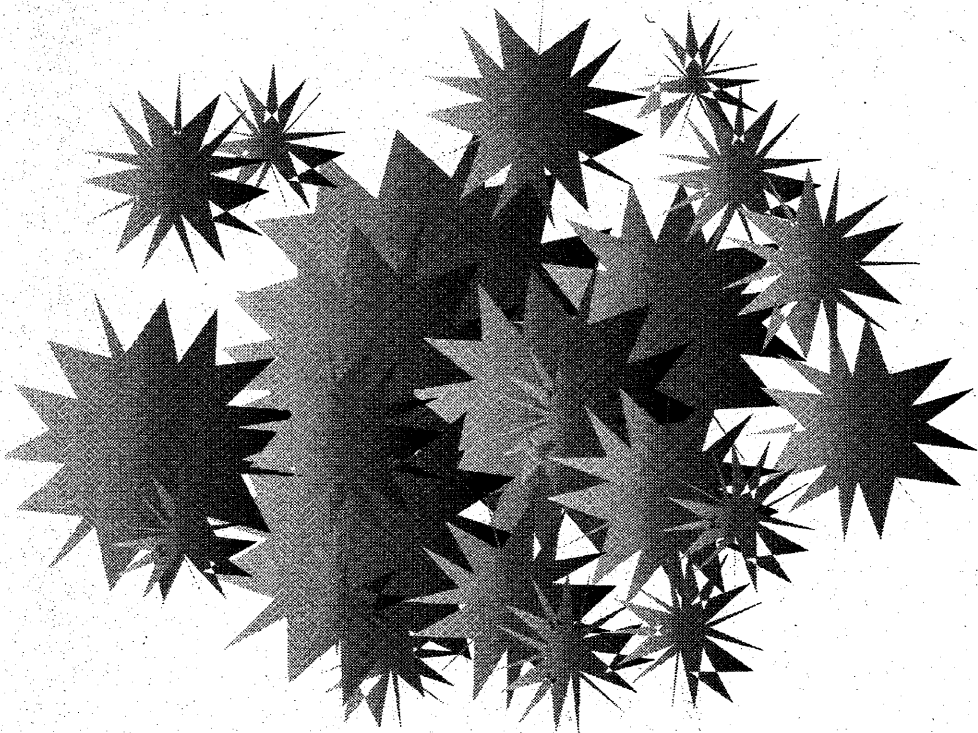


生活造形

平成 19 年 2 月 52

February 2007 Vol.52



京都女子大学 生活造形学科
KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

Kyoto Women's University

Journal of Apparel and Space Design

Vol. 52

February 2007

Contents

A Study on the Housing for the Elderly People

— From the Prospective Renovation Point of View —

Chihoko Shiokawa · Akira Nakano ······ 45

Effects of the secondary water jet pressure on the pore structure and
physical properties of composite nonwovens

Osamu Yaida · Sachiko Omeki · Ai Nakamura · Keiko Yoshida ······ 53

A Study on Collaborative Urban Design Projects by Modern Architects from 1945 to 1970

— Internationalization of the Collaborative Design Process —

Yasunori KITAO ······ 62

京都女子大学生生活造形学科「生活造形」投稿規定

2004.12. 改正

1. 本誌は主として生活造形に関する総説、解説、文献紹介および報文、ノート、資料などを掲載する。
なお原稿の分類は別表の通りとする。
2. 寄稿者は生活造形学科教職員、学生、卒業生および編集委員会で認めた者に限る。
3. 原稿掲載料は原則として無料とする。
4. 本誌に掲載されたすべての原稿の著作権は京都女子大学生生活造形学教室に帰属するものとする。
5. 原稿の採否、修正、その他は編集委員会が決める。
6. 和文投稿原稿で、手書きの場合は生活造形学科原稿用紙を用いる。ワードプロセッサの場合は白紙 A4 版用紙を用い、テキスト形式で保存したフロッピーと共に提出する。
7. 報文の頭初には表題、著者名、所属機関を和文および英文で記載する。
8. 報文には英文要旨を、目的・方法・結果・考察を含めて、本文中の内容を理解できるように平易な文で簡潔に書く。長さは 150 語程度とする。原稿は A4 版用紙を用いワードプロセッサまたはタイプライターにより 2 行送り（ダブルスペース）で作成する。英文用紙にはこれに対応する和文要旨を添える。これは、本文が英文の場合には印刷されるが、本文が和文の場合には印刷されない。
9. 原稿の記載は次に形式による。
 - (1) 和文原稿では、原則として当用漢字・新かなづかいを用いる。ただし、普通の用いられる外国語の術語物質名などはカタカナとする。カタカナにすることにより、字義が不明確になるおそれのあるものはこの限りではない。
 - (2) 単位は原則として国際単位 (SI) 系とする (JIS Z8203 参照)。
 - (3) 引用文献の書き方は下記の通りとする。なお、雑誌の巻数には赤でアンダーラインをつけること。
(和文雑誌) 著者名：雑誌名、巻、ページ (発行年)
(欧文雑誌) 著者名：雑誌名、巻、ページ (発行年)
(単行本) 著者名：書名、発行社、発行地、引用ページ (発行年)
〈例〉 1) 田村奈巳、酒井哲也、酒井豊子、：家政誌、50, 331-336 (1995)
2) R. J. Pace, A. Datyner: Tex Res J; 50, 34 (1980)
3) T. Vickerstaff: The Physical Chemistry of Dyeing, Oliver & Boyd CO., New York & London, P.43 (1954)
4) 江馬務：江馬務著作中第六巻，中央公論社，東京，19 頁 (1977)
10. 図表の記載は次の形式による。
 - (1) 同一実験結果を図および表に重複して掲載しない。
 - (2) 各図 (写真も含む)、表には図 4、表 3 のように表記し、簡単な表題をつけること。原稿には、図表の挿入箇所を、右側の余白に明示すること。
 - (3) 図は原則として白紙または淡青色方眼紙に製図用インキで書く。図には刷上りの寸法を例えば縮尺 1/2、横 7.0cm などのように記入するのが望ましい。
 - (4) 図に記入する文字は縮尺を考えて大きく書くか、または鉛筆書きのままとする。
11. 上記以外の執筆要項は日本家政学会「日本家政学会誌」のそれに準じる。

12. 校正は再校までは著者が行なう。
13. 別刷は 20 部までは贈呈するので、希望者は再校時に希望数を記入すること。
14. 原稿は、書留便で原稿在中と表記の上、下記宛に送付する。

〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町 35

京都女子大学「生活造形」編集委員会

種 類	内 容	最大頁数
(a) 総 説 (b) 解 説 (c) 文献紹介 (d) そ の 他	一つの主題についての総合的な論説や記事で、提案、批評などを含む内容のもの。 研究、技術、社会情勢などに関する平易な解説。 国内、国外の研究論文、書籍などの紹介。 教職員の研究活動などに関する報告記事、会社・研究所などの見学記および学会行事などに関する報告など。	
(e) 報 文	生活造形に関係のある研究で、新しい価値のある結論あるいは事実を含むと認められるもので、本誌に掲載される前に他の学術誌に投稿あるいは掲載されていないものに限る。原則として学会の研究発表会で講演済みのものとする。	8
(f) ノ ー ト	原著論文であるが、論文としては十分な結論を得るに至っていないもの。	3
(g) 資 料	研究の資料として価値あるもので、上記の論文、ノートのいずれにも属さないもの。	4

* 1 頁の文字数は、22字×37行、横 2 段組みとする。

編 集 委 員：岡部 和代，愛宕 出，常見美紀子，片山勢津子

表紙デザイン：鈴木 佳子

編 集 後 記：

生活造形 52 号をお届け致します。

本巻では、短い期間ではありましたが、新しい分野である日本の家具・室内意匠史の研究・教育に携わっていただいた小泉先生の定年退職にあたり、先生のご挨拶や思い出を中心とした特集を組みました。これからもますますお元気にご活躍されることを期待申し上げます。

報文が少なく残念ですが、受賞をはじめ学生の活動記事が満載となりました。生活造形学科の幅広い活動状況が証明できたのではないのでしょうか。

ご執筆いただいた皆様にお礼申し上げます。

(S.K)

京都女子大学生生活造形

平成19年2月1日 印刷

平成19年2月8日 発行

(会員頒布 非売品)

編集責任者

片 山 勢津子

発 行 所

京都女子大学生生活造形学教室
京都市東山区今熊野北日吉町35
TEL 075-531-7174

印 刷 所

(株)北斗プリント社
京都市左京区下鴨高木町
TEL 075-791-6125